

# トホクのヘチマ栽培方法

発芽適温：25～30℃ 生育適温：25～30℃  
 土壌酸度：pH6.0～6.5 連作障害；2～3年あける

## 1. 作物特性

ヘチマは一般的に支柱を立ててネットなどに絡ませて育てます。高温性の作物で、定期的な追肥と水やりを欠かせなければ特に問題なく育ちます。気温が充分であれば生育は旺盛で、つるがどんどん伸びていき、また果実も重くなりますから、丈夫な支柱を立ててしっかりネットに絡ませることが重要です。若い果実はとろけるような滑らかさがありますが、日が経って繊維が発達したものは食用出来ません。食用にする場合はとり遅れないように注意しましょう。

## 2. タネまき

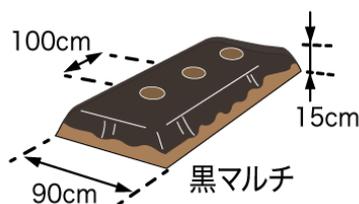
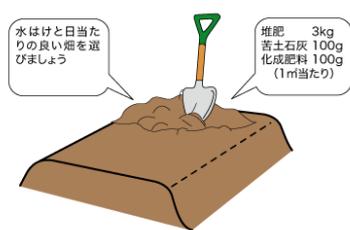
ヘチマは発芽しにくいので、タネをまく前に傷つけておきます。ヘそとは反対側の平らな方の端を爪切りで摘みます。



タネは直接畑にまくこともできますが、ポットにまいて苗を育てる方が失敗は少ないでしょう。発芽適温は地面の温度で25～30℃ですから、気温が比較的高くなってからまきます。

## 3. 植えつけ

排水の良くない畑では少し高いうねを立てるとよいでしょう。マルチを張ると雑草防除と地温確保、土壌水分保持に有効です。



株間は1m以上必要です。ポットで育てた場合は本葉3～4枚の頃に植えつけます。

植えつけた後はしっかりと水をやリ、早めに支柱を立ててネットを張りましょう。



## 4. 栽培管理

つるが伸び出したらネットに絡めて誘引します。支柱に絡ませるように誘導していきます。つるが次々と伸びますので混み合わないようにつるを摘みます。また株の状態をみて2～3週間おきに化成肥料を株元に追肥します。



ヘチマの花が咲く頃は受粉を助ける虫も多く飛んでいますので、人工交配する必要はありません。

## 5. 収穫

花が咲いてから7～10日後の若い果実を収穫します。育ち盛りの若い果実は繊維も発達してないのでおいしく食べることができます。



長さが20cmを越えると食べられないほど繊維が発達します。食用にする場合は収穫遅れがないように注意します。



スポンジとして利用するためには開花後40～50日以上経った完熟果実を収穫します。ヘチマ水を採取するには株元から50cm～1mの高さでつるを切り、その先を下に向けて瓶などに挿して集めます。つる先が抜けないう脱脂綿などで固定し、瓶に直接陽射しが当たらないように新聞紙などで陰にします。

栽培例	● まく時期      ■ 収かく期											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
冷涼地				●	●	●	■	■	■	■	■	■
中間地			●	●	●	■	■	■	■	■	■	■
暖地			●	●	●	■	■	■	■	■	■	■